

だれにとっても、便利で清潔なじゃぐち

5年1組 西村 愛

1. 調べたきっかけ

わたしがよく利用する、地域の図書館のトイレのじゃぐちは、センサー式で、手を差し出すだけで水が出てくるものだ。家や学校のじゃぐちとは形がちがうので、前から気になっていた。そこで、このじゃぐちについて、くわしく調べることにした。

2. 調べ方

大きく二つの方法で調べた。まず、図書館に行き、実際にセンサー式のじゃぐちを使ってみたり、他の利用者にインタビューをしたりした。次に、本やインターネットで、このようなじゃぐちが、どのようなねらいから作られたのかを調べた。

3. 調べて分かったこと

(1) どんな人にも使いやすい

センサー式のじゃぐちは、ハンドルを手でひねったり上げたりしなくても水が出てくる。「身近なユニバーサルデザイン」によると、「体に負担^{たん}がかからないので、力の弱い人や、手にけがをしている人も使うことができる」そうだ。

実際に、図書館のトイレで手をあらっていたお年よりにお話をうかがうと、「年を取ると、指に力が入りにくくなるから、手を差し出すだけで使えるのは、助かるよ。」と話してくださった。

このように、センサー式じゃぐちは、年齢や体の状態^{たい}を問わず、どんな人にも使いやすいデザインなのだ。



(2) 清潔に使うことができる

図書館で、このじゃぐちを使っている人たちを見ていて気づいたことが、もう一つある。それは、だれもがハンドルをさわることなく手をあらえるので、衛生的^{えい}だということだ。

インターネットで調べてみたところ、〇〇市では、新型^{がた}コロナウイルスの感染が始まってから、その対策として、公共のしせつのトイレのじゃぐちをセンサー式じゃぐちにかえたとのことだ。多くの人が同じじゃぐちを使って手をあらう場所で、清潔に使うことができるのは、とても安心だ。

4. まとめ

センサー式じゃぐちについて調べてみて、改めて分かったのは、ユニバーサルデザインは、多くの人にとって使いやすく、安心してくらすことのできる毎日してくれるものだということだ。このような工夫を取り入れることによって、不自由な思いをする人がへり、だれもが気持ちよくすごせる社会になっていくのだと思う。

〈参考〉犬山ほのか「身近なユニバーサルデザイン」ひかり図書、2024年、39ページ

「〇〇市の感染症対策について」(〇〇市ウェブサイト、2024年6月25日参照)